



2020年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年3月6日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 松尾 雄司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 2020年3月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年4月期第3四半期の業績 (2019年5月1日~2020年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年4月期第3四半期	4,954	5.9	649	△7.1	651	△7.2	460	△4.1
2019年4月期第3四半期	4,676	5.6	699	15.7	702	14.9	479	16.1
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年4月期第3四半期	27.32		—					
2019年4月期第3四半期	28.50		28.49					

(注) 2020年4月期第3四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年4月期第3四半期	6,279	5,702	90.8
2019年4月期	6,271	5,431	86.6

(参考) 自己資本 2020年4月期第3四半期 5,702百万円 2019年4月期 5,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年4月期	—	0.00	—	11.00	11.00
2020年4月期	—	0.00	—	—	—
2020年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年4月期の業績予想 (2019年5月1日~2020年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,738	7.0	824	△5.1	829	△5.1	545	△9.0	32.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年4月期3Q	17,464,000株	2019年4月期	17,464,000株
2020年4月期3Q	623,057株	2019年4月期	622,941株
2020年4月期3Q	16,840,987株	2019年4月期3Q	16,834,906株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善傾向は持続しておりますが、米中貿易摩擦の長期化や新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済への影響懸念などにより、先行き不透明感が増幅しております。

このような環境の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業という、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業では、ハード機器売上や動画等葬儀演出サービス売上は順調に推移したものの、主力である遺影写真加工収入は特に第3四半期会計期間において暖冬の影響を受け、前年同四半期実績を下回り、それに連動して額やサブライ品の売上も想定を下回ったため、売上は微増にとどまりました。

取り組みとしては、葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」の一つとしてリリースしております、喪主と会葬者を繋ぐサービス「tsunagoo(つなぐ)」の拡販及び機能強化開発に努めてまいりました。

利益面につきましては、画像処理部門の人員増に伴い人件費が増加し、また、研究開発費も増加したため、セグメント利益は減少いたしました。

その結果、売上高は1,915,859千円(前年同四半期比101.1%)、セグメント利益は500,126千円(前年同四半期比94.9%)となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場では「アスカブック」、一般消費者向け市場では「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真をもとにフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、自社営業による活動に加え、全国でのセミナーやワークショップを通して、アスカブックの売上拡大を進めてまいりました。また、データ納品サービス「グランピック」の浸透に努めてまいりました。その結果、プロフェッショナル写真家向け市場の売上は増加いたしました。

一般消費者向け市場では、効率的なネット広告宣伝や各種キャンペーンの実施、SNSの活用などの施策を実施するとともに、季節商品となるカレンダーや卒業アルバムのプロモーションも進めてまいりました。その結果、写真集がまっ平らに開くフルフラットタイプを中心に堅調な売上となり、激しい競争環境ではありますが、前年同四半期実績を上回りました。また、OEM供給につきましては、サービスの浸透が進み、売上は順調に伸長しております。

利益面につきましては、人件費の増加や送料の値上げなどに加え、本社隣接の新工場(西館)の完成や生産設備の増強による減価償却費の増加やそれに伴う移転費用などコスト増加要因があったものの、OEM部門を中心とした売上増加が寄与し、セグメント利益は増加いたしました。

その結果、売上高2,962,001千円(前年同四半期比110.2%)、セグメント利益は712,735千円(前年同四半期比102.0%)となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、2011年3月に開始した事業であり、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれ開発、製造、販売しております。

ガラス製ASKA3Dプレートにつきましては、依然として十分なコストダウンは図れていないものの、高品質の空中結像を可能にする大型プレートを供給しており、小ロットではありますが、サイネージ目的や開発目的での販売を行っております。また、量産性と低コスト化を備えた新たな製造開発にも取り組んでおります。

樹脂製ASKA3Dプレートにつきましては、第1段階の量産体制を前提とした生産規模と価格感にフィットした受注案件の獲得に努めてまいりましたが、現時点ではサンプル規模の販売にとどまっております。さらなる低コスト化と輝度の向上に向けた改良を進めるとともに、耐熱性の高い素材での開発も進めております。

事業化には想定以上の時間を要しておりますが、国内外を問わず様々な業種の企業からの空中結像活用に対する大きなニーズを確認しており、そのニーズに応えるべく課題解決を進めてまいります。

営業面につきましては、販売単価の低い樹脂製ASKA3Dプレートのサンプル販売の割合が増加したことから、売上は前年同四半期実績を下回る結果となりました。2019年11月には国内展示会「ファインテックジャパン」に出展し、PCとつなげるだけで空中操作が可能になるサブモニターとしての用途提案や、結像飛距離が2倍になり結像品質も向上する新技術の紹介を行いました。

費用面では、広告宣伝費は抑制したものの、ガラス製および樹脂製ASKA3Dプレートの製造開発費や特許関連費用が増加し、また人件費も増加したため、セグメント損失は前年同四半期に比べやや増加しました。

その結果、売上高は79,097千円（前年同四半期比77.1%）、セグメント損失は176,127千円（前年同四半期は163,133千円の損失）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,954,648千円（前年同四半期比105.9%）となりました。利益面につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業においてセグメント利益が増加したものの、暖冬の影響等でメモリアルデザインサービス事業のセグメント利益が減少したこと、およびエアリアルイメージング事業におきましてセグメント損失がやや増加したことにより、経常利益は651,231千円（前年同四半期比92.8%）、四半期純利益は460,034千円（前年同四半期比95.9%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ8,218千円増加し、6,279,732千円となりました。これは主に、現金及び預金が592,974千円減少した一方で、受取手形及び売掛金が92,825千円、本社隣接の新工場（西館）の建設や生産設備増強などにより有形固定資産が269,155千円、社債を購入したことなどにより投資その他の資産が208,516千円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ262,940千円減少し、577,539千円となりました。これは主に、未払法人税等が131,400千円、賞与引当金が68,000千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ271,158千円増加し、5,702,193千円となりました。これは主に、四半期純利益を460,034千円計上した一方で、剰余金の配当による減少185,251千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月11日に発表いたしました2020年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年4月30日)	当第3四半期会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,274,763	1,681,788
受取手形及び売掛金	827,239	920,064
商品及び製品	172,942	177,197
仕掛品	23,551	26,751
原材料及び貯蔵品	78,072	92,369
その他	36,842	28,564
貸倒引当金	△2,914	△3,478
流動資産合計	3,410,498	2,923,258
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	508,636	916,754
機械及び装置(純額)	409,561	489,600
土地	844,060	844,060
その他(純額)	399,350	180,348
有形固定資産合計	2,161,609	2,430,765
無形固定資産	202,370	220,157
投資その他の資産		
投資有価証券	228,800	425,007
その他	268,235	280,544
投資その他の資産合計	497,035	705,552
固定資産合計	2,861,016	3,356,474
資産合計	6,271,514	6,279,732
負債の部		
流動負債		
買掛金	169,180	132,718
未払金	173,963	155,193
未払法人税等	187,900	56,500
賞与引当金	144,200	76,200
その他	155,905	149,020
流動負債合計	831,149	569,631
固定負債		
退職給付引当金	6,009	6,009
その他	3,320	1,897
固定負債合計	9,330	7,907
負債合計	840,479	577,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	4,608,076	4,882,858
自己株式	△268,850	△269,031
株主資本合計	5,436,110	5,710,711
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△5,076	△8,518
評価・換算差額等合計	△5,076	△8,518
純資産合計	5,431,034	5,702,193
負債純資産合計	6,271,514	6,279,732

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年5月1日 至2019年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年5月1日 至2020年1月31日)
売上高	4,676,804	4,954,648
売上原価	2,252,871	2,413,601
売上総利益	2,423,932	2,541,046
販売費及び一般管理費	1,724,696	1,891,619
営業利益	699,235	649,426
営業外収益		
受取利息	348	770
受取配当金	1,010	950
受取手数料	381	287
保険金収入	960	—
未払配当金除斥益	950	1,051
その他	467	172
営業外収益合計	4,118	3,232
営業外費用		
為替差損	1,246	1,340
その他	—	87
営業外費用合計	1,246	1,427
経常利益	702,107	651,231
特別損失		
固定資産除却損	424	145
特別損失合計	424	145
税引前四半期純利益	701,682	651,086
法人税等	221,865	191,052
四半期純利益	479,817	460,034

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2018年5月1日 至 2019年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,895,540	2,687,439	93,823	4,676,804	—	4,676,804
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	8,714	8,714	△8,714	—
計	1,895,540	2,687,439	102,537	4,685,518	△8,714	4,676,804
セグメント利益 又は損失(△)	527,213	698,974	△163,133	1,063,054	△363,819	699,235

(注) 1 セグメント利益の調整額△363,819千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 2019年5月1日 至 2020年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,915,859	2,962,001	76,787	4,954,648	—	4,954,648
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	2,310	2,310	△2,310	—
計	1,915,859	2,962,001	79,097	4,956,958	△2,310	4,954,648
セグメント利益 又は損失(△)	500,126	712,735	△176,127	1,036,734	△387,307	649,426

(注) 1 セグメント利益の調整額△387,307千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。